



第 30 回例会報告 (2月7日)

【出席報告】

・会員数	51名	・出席数	43名	・欠席数	8名
・当日出席率	86.04%	・前々回修正出席率	95.74%		

<欠席会員> 檜垣(俊)、小堀、桑森、田中、竹田、渡辺

[免除会員] 原田、檜垣(巧)

<1/29 欠席補填> (1/20 今治南) 青野(淳)、原、檜垣(賢)、平田、飯、桑森、眞鍋、村上(裕)、田中 (1/27 今治南) 尾越

インターシティー・ミーティング 今治国際ホテル クリスタルホール

愛媛第 I 分区 2014-2015 年度インターシティー・ミーティングが、平成 27 年 2 月 7 日、寒さ厳しいながらも穏やかな日和のもと、今治国際ホテルに会員およそ 250 名が集い開催された。点鐘が高らかに会場に響いて開会を告げ、国歌斉唱、ロータリーソング「奉仕の理想」に続いて、久米 IM 実行委員長から「愛媛県単独開催は初めてとなる 2017 年の愛媛国体に続いて 2020 年には東京オリンピックを迎える。国体、オリンピックを通して RC としてできることは何か考えたい。」と IM テーマの趣旨を説明。つづいて、越智ホストクラブ会長と菅今治市長による歓迎のことは、来賓ならびに役員紹介・参加クラブ紹介、須之内 PG による佐々木ガバナーの挨拶文代読が行われた。



▼やり投げで日本第一人者の村上幸史氏の基調講演: 高校進学にあたり、やり投げと出会って高校 3 年間はやり投げの練習浸け、大学では肘を故障したが恩師の言葉のおかげで、やりを遠くに投げるために手術を決断、大学・実業団ではスランプ脱出のために指導者に教えを乞うことの大切さを学び、世界に通用するレベルに達することができた。競技人生を振り返って「人・競技と出会うこと、練習・競技を続ける(続けられる)ことが大切」と感じている。

▼今治サッカー協会井本雅之氏の基調講演: 鉄腕アトムが誕生した時代には人型ロボットは妄想でしかなかったが、夢を実現しようとする技術者の思いと、たゆまぬ取り組みで現代では現実のものとなったことを例にとり、「妄想を抱き、こつこつと前進することで妄想は夢となり、さらには現実となっていく。」という思いで、FC 今治と NPO 法人しまなみスポーツクラブの発展に尽力していく。

▼ミーティング: 各クラブから個人団体の取り組みが発表されたのち、国体開催の気運の高揚、競技力向上の支援、宿泊・競技開催のボランティアなどに関して討議され、「地域に目を配り、地方からスポーツで活性化するという思いで奉仕活動に目を向けよう」とまとめられた。最後に白石ガバナー補佐が「今回の意見を各クラブに持ち帰り、今後の活動方針に方向性を出していただきたい。」と締めくくった。▼閉会では須之内 PG から、お二人の講演では、日本人の心の原点である「一期一会」の大切さを改めて感じた。今回の IM は主催者のみならず参会の皆さんのおかげで素晴らしい会となったと講評。最後に出席者全員で「手に手つないで」を合唱し、閉会となった。



次回例会 (2月19日)

【IM報告】

<会員誕生日祝> 檜垣 賢二氏 (2/19)

<配偶者誕生日祝> 平尾 浩一郎氏 (2/25)

[笹]

2月12日(木)は振替休会です。